

指扇小だより

学校教育目標 **やり抜く子の育成**

かしこく やさしく たくましく あたたく

10月号 令和4年9月30日 第6号

さいたま市立指扇小学校

〒331-0078

さいたま市西区西大宮1丁目49-6

電話 048-623-0133 FAX048-624-2200

【児童数】男子 429名 女子 444名 計 873名

凡事徹底 ～親しき仲にも「挨拶・返事」あり～ 校長 引間 陽子

朝晩の涼しさが増し、秋の到来を感じます。四季折々がある日本ですが、虫の音、花の香り、秋晴れの青空など、秋を味わうと、とりわけ諸感覚を擽られ、感性が磨かれるように感じます。本校でも、今月の12日には芸術の秋に触れる音楽の行事「プライマリーコンサート」が行われ、公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団の演奏を鑑賞しました。弦楽四重奏の演奏は体育館での生演奏と教室でのオンライン視聴というハイブリットな演奏会でしたが、校舎全体が演奏会場のように、素晴らしい音色が響き渡り、子どもたちの情操を豊かにしました。

さて、さいたま市教育委員会の施策の一つに「心を潤す4つの言葉」があります。本校では年間を通して、子どもたちが進んで挨拶ができることを目標に推し進めています。例えば、毎月の全校朝会では生徒指導の担当から毎回あの手この手と工夫を凝らした話によって挨拶推進を投げかける取り組みが行われています。その効果も出ており、特段、朝の一時は子どもたちの挨拶の様子に思わず笑顔になる場面に遭遇します。登校指導ですれ違う子どもたちが「おはようございます」と手を振ってくれたり校長室を通り過ぎる際に一旦立ち止まってお辞儀をしてくれたり「校長先生、おはようございます」と名前まで呼んでくれたりと心が温かくなります。



心を潤す4つの言葉

挨拶や返事は凡事とはいふものの、「なぜ、挨拶や返事をするのか？」とふと疑問になります。言葉を調べると、(挨拶と返事は顔を合わせた際や別れ際に、礼儀として行われる典型的な言葉や動作のこと。また、日常生活に欠かせない人と人とが気持ちよく生活できるための言葉。)とありました。一つ一つの言葉の起源や語源を調べるともっと深い意味があるようです。例えば「おはよう」の起源は歌舞伎からという説があるようです。歌舞伎の公演の際に楽屋入りした座長を迎え、「お早いおつきですね。」「お早くから御苦労様です。」と相手を労った言葉が始まりのようです。ですから、座長が夕方に楽屋入りした場合も使い、朝に限定した挨拶ではなかったとのこと。「おはよう」という挨拶はそもそも相手を労う気持ちを伝える会話のきっかけの言葉だったのでしょう。「今日(こんにち)は寒いですね。」「今晚(こんばん)は月がきれいですね。」「これは有り難いです。(ありがとう)」など、どの挨拶も会話のスタートを切る言葉だったのでしょう。

もう一方で、「はい」という返事とはいうと、相手にきちんと伝えることによって話しかけられた人への思いやりも含まれるようです。「はい」の意味は《拝》《配》《背》《輩》など幾つかあり、《拝》は相手の呼びかけを受け取る時の感謝の気持ちの現れ、《配》は目配り、気配り、心配り、身配り、手配りなど注意を払う気持ちの現れ、《背》は力強い語調で、足元を揃え、背筋を伸ばす姿勢を意識している元気な気持ちの現れ、《輩》は我輩(吾輩)の意味を表し、自己顕示や自己主張等の現れとのこと。「はい」の言葉一つ取っても奥が深いものです。

親しき仲にも礼儀ありとはいいますが、親しき仲にも「挨拶・返事」ありと心がけ、意識の向上に繋げていくよう、引き続き子どもたちに声かけや称賛をしていきます。

最後になりますが、2学期は各種学校行事が目白押しです。9月には、2年遠足の茨城県自然博物館見学、3年社会科見学の市立博物館・鉄道博物館見学、1年遠足の東武動物公園見学とありました。来月以降も6年の修学旅行、4年社会科見学の秩父まつり会館・秩父神社見学、5年社会科見学の首都圏外郭放水路・武州中島紺屋見学と、次々に実施予定になっていますが、これらの行事等実施においても感染症対策の徹底等に努め、子どもたちが安全に参加でき、体験活動を通して学びを深められるよう取り組んでいきます。

保護者の皆様、地域の皆様、よろしくお願いいたします。



3年社会科見学 鉄道博物館